

地盤品質判定士，地盤品質判定士補，ならびに地盤品質判定士協議会関係者の皆様へ

技術資料掲載のお願い

地盤品質判定士会では，公益社団法人地盤工学会九州支部のご支援のもと，2017年9月20日~21日にグランメッセ熊本(熊本県益城町)で開催される「先端建設技術フェア in 熊本」において，被災宅地の復興支援を目的として，宅地被災者の方を対象とした「地盤品質判定士による住宅地盤相談会」および「宅地の復旧・復興に関する講演会」の開催を予定しております。

熊本地震で大きな被害を受けた宅地被災者の多くは，地盤工学や宅地造成，耐震補強などの専門家ではないため，被害を受けた宅地の復旧・復興のための最新の技術情報に触れる機会も多くありません。今回の「先端建設技術フェア in 熊本」は，そのような被災者の方にとって，最新の技術情報に触れ，多くの専門家の助言を得る良い機会と考えております。

そこで，地盤品質判定士会では「地盤品質判定士による住宅地盤相談会」および「宅地の復旧・復興に関する講演会」に参加された宅地被災者および一般市民の方に宅地の復旧・復興に関する最新技術を紹介した技術資料を作成し，会場で配布したいと考えております(詳細は添付資料をご参照願います)。これは，皆様の所属組織にとりましても，その保有技術を宅地被災者および一般市民の方に広く知って頂く良い機会になるのではないかと考えております。

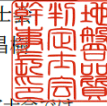
この機会に，是非，技術資料掲載をご検討・お申込みを賜りたく，ここにご案内申し上げます。

地盤品質判定士会 幹事会
幹事長 北詰昌樹
総務・企画委員長 奈須徹夫

追記：同様の技術が複数申し込まれた場合には，先着順とさせていただきますが，協会等の公益性が高い団体の場合は優先させていただきます。また，技術紹介として内容がふさわしくないと判断された場合は申し込みがなかったものとさせていただきます。

先端建設技術フェア in 熊本
地盤工学会九州支部 地盤品質判定士会共同企画
《地盤品質判定士による住宅地盤相談会》
《宅地の復旧・復興に関する講演会》
技術資料掲載のお願い

地盤品質判定士
幹事長 北詰昌博



2016年4月に発生した熊本地震において発生しました宅地の被害などに関して、地盤品質判定士会では災害調査や報告会を行うとともに、市民向け相談会などの被災者の方々を支援する活動を続けてきております。そして、震災発生から1年と数か月が経過した今、被災地では本格的な復興が始まりました。この度、地盤品質判定士会は公益社団法人地盤工学会九州支部のご支援のもと、2017年9月20日~21日にグランメッセ熊本(熊本県益城町)で開催される「先端建設技術フェア in 熊本」において、被災宅地の復興支援を目的として、宅地被災者の方を対象とした「地盤品質判定士による住宅地盤相談会」および「宅地の復旧・復興に関する講演会」を開催いたします。

本「先端建設技術フェア in 熊本」には、198件のブース展示の申し込みがあります。また、本イベントは協賛団体や九州・熊本地区のマスコミ、熊本県、熊本市、各自治体などを通じて一般の方々にも広く広報・宣伝しておりますので、宅地被災者だけでなく一般市民の方も含む多数の方が参加されるものと見込まれております。

そこで、地盤品質判定士会では、相談会場および講演会会場において住宅地の復旧・復興に関する技術資料を作成・配布して、最新技術の普及を図ることを考えております。これは貴社にとりましても、貴社の保有技術を宅地被災者および一般市民の方や展示会参加者の方に広く知って頂く良い機会になるのではないかと考えております。この機会に、是非、技術資料掲載をご検討・お申込みを賜りたく、ここにご案内申し上げます。

記

■先端建設技術フェア in 熊本

- 主催者 名古屋国際見本市委員会
- 開催 HP <http://www.kgf-kuma.com/>

■地盤品質判定士による住宅地盤相談会

- テーマ あなたの家の地盤についての疑問・質問に答えます
- 日時・場所 2017年9月20日(水)~21日(木) 10:00~16:00
グランメッセ熊本 1F 展示場 (公社)地盤工学会九州支部ブース
- 対象者 宅地被災者の方ならびに一般市民の方

■宅地の復旧・復興に関する講演会

- テーマ 熊本地震被災者のための住宅地盤に関する熊本地震からの復旧・復興
- 日時・場所 2017年9月21日(木) 10:20~12:20
グランメッセ熊本 2階大会議室
- 対象者 一般市民の方ならびに展示会参加者

■技術資料掲載概要

- 掲載資料 住宅地盤宅地講演テキストに掲載いたします
- 配布対象 講演会参加者ならびに住宅地盤相談会の参加者
その他、今後、地盤品質判定士会の活動で紹介・配布する予定です。

■広告掲載料 A4サイズ 20,000円

別送の指定規格(Ward形式)のとおり
(申し訳ありませんが、振込手数料はご負担願います)

■申込期限 2017年9月4日まで

■原稿期限 2017年9月11日まで

※ 原稿は ward 形式のままで、申込先 E-mail まで返送願います。
返送時のメール件名は、「in 熊本_技術資料申込」と記載願います。

■お問合せ・お申込み先

地盤品質判定士協議会 事務局 (岡田・小野)
〒112-0011 東京都文京区千石 4-38-2 (公社)地盤工学会 JGS 会館内
FAX:03-3946-8678
E-mail : jage2@jiban.or.jp

文頭には一般名称を記載願います。フォントはHGPゴシックM 10.5に統一します。アンダーライン付。

紹介する技術の商品名・型式番号等を記載してください。

フォントはHGPゴシックM 16太文字とします。形式番号等が英数字の場合は半角で記載願います。

○○○○○○○○

□□□□□□□□□□□□ AAA-123-456

調査計画 修復修正 地盤対策 その他

キーワード:○○○・○○○・ABC-123

概要

紹介する技術について簡潔にその特徴や背景、利用法などを200文字程度で説明してください。文中では商品名ではなく一般名称を用いてください。語尾は…です、…ます。などで記載願います。

技術の区分に合わせ、調査方法、計測方法、修復方法、施工方法などから選定してください。

わかり易いキーワードを記載願います。

調査方法

技術について具体的に説明をしてください。数式等を記載されても有効です。

全体のフォントはHGPゴシックMで統一します。

図表の説明はゴシックにてお願いします。

貼り付けた図表内のフォントは自由とします。

図では、文字・数値が読けづらいようにフォントを調整願います。印刷により、色彩が微妙に変化する場合があります。

図・表・写真の説明はゴシックで記載願います。

図-1 ○○○○

表-1 □□□

写真-1 △△△

表を貼り付けると説明が具体的になります。

写真や図表等はサイズを小さくしてデータサイズが過大とならないようにしてください

適応範囲

紹介する技術の適応範囲や適性等を明確に説明してください。

- 1)箇条書きなどの併用も可能です。
- 2)ここでは、利用者がほかの類似の技術と混同しないよう商品名を記載することも可とします。

必要に応じて、二次元バーコードやURLの表示をしてください。二次元バーコードは、20mm×20mm程度とし、読み取り間違いがないようにしてください。

問合せ先

社名等はロゴの使用が有効です。

キャッチフレーズ等の記載も可
図面・写真等の貼り付けも可



技術開発部：
〒111-2233 □□県○○市△△△1-2-3
TEL:012-345-6789 FAX:012-345-6789

本社：
〒123-4567 ○○部○○区□□□123番地-45
TEL:0987-65-4321 FAX:0987-65-4321
URL http://www.AAA.jp

問合せ先は、他社との混同が無いように明確に表記願います。問合せ部署も明確にしてください。

動的コーン貫入試験装置

全自動動的コーン貫入試験装置 CRS-12-2

調査計測・修復修正・地盤対策・その他

キーワード: 調査・サウンディング・Nd値・液状化

概要

動的コーン貫入試験装置はスウェーデンで開発された貫入試験装置で、連続的に地盤強度を計測することができます。本試験によって得られるNd値は、標準貫入試験によるN値とほぼ等しい($Nd \approx N$)とされています。特殊サンプラーを用いることで試料採取も可能なため、液状化判定調査や汚染土調査に利用できます。

本試験の貫入深度は通常 20~30m です。また、N 値 30~50 の砂質土、N 値 20 程度の粘性土まで測定できます。

試験方法

本試験は質量 63.5kg のハンマーを、高さ 50cm 位置から自動的に自由落下させ、先端コーンが 20cm 貫入するのに要する打撃回数(Nd)を記録するものです。

Nd 値は、以下の式を用いて求めます。

$$N_d = N_{co} - \alpha \cdot M \quad \dots(1)$$

ここに N_{co} : 補正打撃回数
 N_m : 測定打撃回数
 α : トルク係数(0.40)
 M : トルク(kN・cm)

周面摩擦を補正するためのトルク計測は自動的に計測されます。

Nd 値の算定式は土質によらず一定であるため、互層地盤においても適用は容易です。

特殊サンプラーを用いると任意の深度で試料を採取することができるため、試料を粒度試験などの室内試験に供することで液状化判定を行うことが可能です。

適応範囲

試験装置としての貫入力が高く、機動性に富むため、沖積層だけでなく崩積土層下の地盤や互層地盤にも適用でき、広範囲で多数の調査を行う場合に適しています。

調査時間も短縮でき、標準貫入試験の測点間の補完調査が可能です。

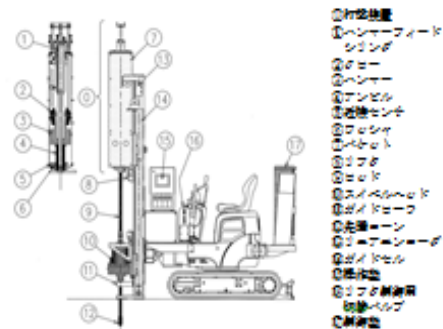


図-1 SRS 試験装置 (CRS-12-2)



図-2 特殊サンプラー

表-1 SRS 打撃装置の諸元

動的コーン貫入試験装置	CRS-12-2	地盤工学会基準 JGS 1437-2014 大型(SRS)	国際標準化機構規格 ISO 22476-2 DPSH-A
	ハンマー質量 m (kg)	63.5±0.5	63.5±0.5
落下高さ h (mm)	500±10	500±10	---
ハンマー外径 D_h (mm)	246	---	---
打撃装置総質量 (kg)	81	(最大) 115	---
アンビル直径 D_a (mm)	120	50< d < D_h	50< d <0.50
アンビル質量 m (kg)	17.5	(最大) 18	(最大) 18

問合せ先

YBM 株式会社 **ワイビーエム**

ワイビーエムは地下と水の技術で

明日の美しい地球環境づくりに貢献します。



技術開発部:
 〒847-1211 佐賀県唐津市北波多岸山 589-10
 TEL:0955-64-3881 FAX:0955-51-2033

本社:
 〒847-0021 佐賀県唐津市原 1534 番地
 TEL:0955-77-1121 FAX:0955-70-6010
 URL <http://www.ybm.jp>